

| 委員会名 | 自己点検者（委員長名） | ①当該年度の活動内容の概要 （簡条書きで良く、参考資料は不要） | ②委員会内での自己評価と問題点の抽出 （簡条書きで良く、参考資料は不要） | ③次年度の改善方策 （簡条書きで良く、参考資料は不要） |
|-------|-------------|--|---|--|
| 入試委員会 | 高取和彦 | <p>(1) 薬学科および生命創薬科学科のアドミッションポリシーを見直し、決定した。</p> <p>(2) 指定校の要件等の見直しをおこない、各指定校へ通知した。</p> <p>(3) 薬学科の募集定員が60名増えるため、その対策として①各選抜方式の定員を検討し、決定した。②既存の指定校の推薦人数枠を見直すとともに、新たな指定校も選定した。</p> <p>③選抜試験の日程を検討し、一般選抜試験B方式前期の日程を変更した。④一般選抜試験の薬学科・生命創薬科学科両学科の全方式への同時出願時の受験料の割引について検討し、更なる割引を行うことを決定した。⑤新たに設けた地域枠選抜方式の出願要件を決定し、試験を実施した。</p> <p>(4) コロナ禍における入試の対策として①共通テストおよび本学個別試験ともに濃厚接触者や体調不良者の予備試験室の準備など、事前準備を入念におこない、実施した。②本学個別試験ではコロナ感染者等のための追試験を準備し、実施した。</p> | <p>(1) 本学における学生の受け入れに関しては、定員を満たすことができ、本学の修学に必要な学力を備えた入学者を確保することができており、概ね適切に実施できている。</p> <p>(2) 少子化と薬学部離れの影響で受験者人口が年々減少している。如何に減少幅を少なくするか、毎年の対策が必要になっている。この対応には入試広報委員会が当たる。</p> <p>(3) 志願者の減少に伴って合格者の学力低下が問題である。受験生の学力に見合った入試問題の作成による受験生の学力識別が重要である。</p> | <p>(1) 薬学科コアカリキュラムの改訂にともない、アドミッションポリシーの改訂を行う。</p> <p>(2) 選抜方式ごとの定員を検討する。</p> <p>(3) 指定校の要件等を見直す。</p> <p>(4) 地域枠選抜の出願状況、合格状況、入学状況を精査し、変更が必要な部分について検討する。</p> |